様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２３ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１２９５６

研究課題名（和文）香港における社会運動と宗教－ ナショナリズムの台頭と宗教の役割

研究課題名（英文）Social Movements and Religion in Hong Kong: The Rise of Nationalism and the Role of Religion

研究代表者

伍　嘉誠（NG, KA SHING）

北海道大学・文学研究院・准教授

研究者番号：９０８０８４８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、香港が、反逃亡犯条例改正運動、新型コロナウイルスの感染拡大、国家安全法の可決という、三つの大事件を迎える中で、調査研究を遂行することとなった。香港社会が激動する中で、宗教団体がどのような役割を果たしているのか、そして、中国返還後に台頭してきた香港ナショナリズムの意識・運動に対して、宗教－特にキリスト教－がどう対応しているのかについて、考察を行った。本研究から得られた新たな知見の一つとして、ナショナリズムの意識の高まりの中で、ごく一部の革新的なキリスト教コミュニティと、ナショナリズムとの間に化学反応が起こり、一種の「クリスチャンナショナリズム」が形成されていることがあげられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、返還後の香港社会において、社会・政治運動に長く関わってきた香港のキリスト教は、どのように高まるナショナリズムの意識・運動に対応しているのかを解明したことにより、返還後の香港における政教関係や、信教の自由、宗教の社会・政治運動の在り方の変化に重要な知見を与えた。また、本研究は、香港の事例を通して、ナショナリズムの形成とキリスト教とのかかわりを解明し、宗教の視点からナショナリズム研究に貢献できた。

研究成果の概要（英文）：This research project was condcuted when Hong Kong was facing three important changes in its history, namely the anti-extradition bill protests, COVID-19, and the implementation of the National Security Law. This research examined, during these turbulent times, how has religion, especially Christianity, responded to the rising nationalistic ideas and movements. One of the most important findings of this study is that, there is a minority of the Christian community that proactively embraced nationalistic ideas, interpreting nationalim based on their understanding of Christian teachings, forming a kind of "Christian Nationalism".

研究分野：社会学、地域研究

キーワード：社会運動　宗教　ナショナリズム　香港

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景
返還後の香港では、中国本土からの影響が強まる中、普通選挙を求める民主化運動「雨傘運動」（2014 年）をはじめとして、地元の利益や自由を守ろうとする「ナショナリズム」の意識や運動の高まりが顕在化している。こうした運動において、宗教、とりわけ社会・政治運動に長く関わってきた香港のキリスト教に、どのような役割があるのかを解明することは、返還後の香港における政教関係や、信教の自由、宗教の社会・政治運動の在り方の変化を理解する上で重要な課題である。以上が、本研究を開始した大きな背景である。研究期間中、香港の情勢がさらに急激に変化し、逃亡犯条例改正運動をきっかけとして、香港史上最大な反政府デモ（2019 年～2020 年）が発生した。このことによって、ナショナリズムの意識は一層高まり、本プロジェクトにおいても、こうした最新の動きを研究の視野に入れて調査を進めた。

２．研究の目的
本研究では、返還後における香港のナショナリズムの意識・運動と宗教、とりわけキリスト教との関係について考察した。具体的には、「雨傘運動」をはじめとする返還後の香港で発生した社会・政治運動において、キリスト教組織、聖職者や信者がどのような役割を果たしていたかについて分析した。また、近年ナショナリズムの意識や運動が高まる中で、キリスト教がどのように対応していたかについて考察した。

３．研究の方法
2019 年から 2022 年においては、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、海外での現地調査が困難となった。したがって、主にインターネット上で公開されたキリスト教関係者による新聞記事・回顧録などのテキストデータの収集および分析を行った。また、オンライン・ミーティング用のソフトウェアを用いて、キリスト教関係者や、デモ参加者を対象としたインタビュー調査もあわせて実施した。2023 年には、コロナでの外出規制が緩和されたため、香港での現地調査（資料収集、インタビューなど）を行った。

４．研究成果
本研究では、香港が、反逃亡犯条例改正運動、新型コロナウイルスの感染拡大、国家安全法の可決という、三つの大事件を迎える中で、調査研究を遂行することとなった。香港社会が激動する中で、宗教団体がどのような役割を果たしているのか、そして、中国返還後に台頭してきた香港ナショナリズムの意識・運動に対して、宗教---特にキリスト教---がどう対応しているのかについて、考察を行った。本研究から得られた新たな知見の一つとして、ナショナリズムの意識の高まりの中で、ごく一部の革新的なキリスト教コミュニティと、ナショナリズムとの間に化学反応が起こり、一種の「クリスチャンナショナリズム」が形成されていることがあげられる。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、コロナに対して宗教はどのような対策を行ったのかについても考察した。実は、香港においてコロナの感染拡大を抑え込むことが比較的にできているのは、市民社会が大きな力を果たしているからである。そこでは、宗教団体も重要な役割を担っている。この背景には、香港市民が政府に対して強い不信感を抱いているということがある。市民の間では自分たちの力でコロナに対応するしかないという意識が高まってきている。例えば、民間社会・企業が自発的にマスクを調達・開発し、不要不急の外出自粛などの呼びかけが早い段階から認められ、宗教団体も多くの力を見せている。有志によるマスク工場の開設、市民団体の防疫活動、個人や店のマスク調達など、市民社会レベルのコロナ対策の事例が多数見られることを考察した。一部は営利目的で行われたものであることは否定できないが、どちらにせよ政府主導ではなく、民間社会の自発的な行動であることが明らかである。本来香港政府が対応すべきことが対応できていない（していない）ため、市民社会の力で対応するしかなかったことは、香港におけるコロナ対策の大きな特徴と言えよう。このように、コロナとの戦いは香港市民の政府に対しての不満・反抗の一面を示すものでもある。

また、感染拡大防止として、各国の政府が人々の移動、ソーシャルディスタンスを規制し、市民の生活を監視・管理する体制や技術の整備、そして市民のワクチン接種も進めてた。こうした政府の動香港でも、コロナ対策の一環として、市民の身体の監視・管理体制が政府によって進められいた。市民の動きを記録するアプリが、香港政府の強い要請で利用されるようになった。政府の呼びかけに積極的に合わせて、信者に強制的にアプリを利用させる教会も数多くあった。こう

した政府や教会の動きは、信者からの反発を招いた。キリスト教信者たちが作ったメディア組織「門徒」は、アプリを利用する教会の情報をリストアップし、デジタル監視に気をつけるよう、キリスト教信者に呼びかけていた。

また、2023 年の現地調査では、国家安全法の影響で、これまで社会・政治運動に関心を示してきた多くのキリスト教関係者が、革新的なナショナリズム運動と距離を保つようになったことが認められた。運動が沈静化していく中、キリスト教関係者においては、今後、どのように民主化運動と関わっていくのかについて、悩んでいる人も多く見受けられた。今日の香港では、ナショナリズム運動はもちろんのこと、民主化運動への参加が、以前に増して困難化している。香港史において、これまで長らく社会参加・政治参加を果たしてきたキリスト教が、どのように自身の役割を調整していくのかが、今後、注目していくべき重要な課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 翁康健・清水香基・伍嘉誠	４．巻 12
２．論文標題 中国少数民族と漢族の間における格差―CGSS2017 > データを用いた社会移動と暮し向きに関する分析―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 21世紀東アジア社会学	６．最初と最後の頁 76-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 伍 嘉誠	４．巻 2021
２．論文標題 新型コロナウイルスとナショナリズムへの試論	５．発行年 2021年
３．雑誌名 21世紀東アジア社会学	６．最初と最後の頁 57～73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20790/easoc.2021.11_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 真鍋祐子、伍嘉誠、司会:藤野陽平	４．巻 1
２．論文標題 儀礼としての民衆デモ―韓国・香港・台湾の事例をめぐって―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 現代宗教2022	６．最初と最後の頁 29-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 伍嘉誠	４．巻 28
２．論文標題 香港における抗議活動と新型コロナウイルスへの一考察 ―「マスク」と「集会」をめぐる議論を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日中社会学研究	６．最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 山根英輔，伍嘉誠	4．巻 6
2．論文標題 香港における抗議活動の背景と発展についての一考察	5．発行年 2020年
3．雑誌名 多文化社会研究	6．最初と最後の頁 131 - 140

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 Ng Ka Shing
2．発表標題 Religion and Biopolitics in Hong Kong: Religious Responses to Government's Zero-Covid Measures
3．学会等名 The 4th Annual Meeting of East Asian Society for the Scientific Study of Religion 2022年8月13日（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 伍嘉誠
2．発表標題 対中意識の間主観性－社会運動にみる香港と台湾の連帯
3．学会等名 北東アジア学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 Ng, Ka Shing
2．発表標題 When Anti-Mainland Nationalism Meets Christianity in Hong Kong
3．学会等名 East Asian Society for the Scientific Study of Religion（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Ng, Ka Shing
２．発表標題 Hong Kong's Resilience in the Face of COVID-19: The Role of Civil Society amid Adversity
３．学会等名 The International Convention of Asia Scholars（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Ng, Ka Shing
２．発表標題 The Role Of Faith-based Community During The COVID-19 Pandemic: A Case Study Of Hong Kong
３．学会等名 International Society for the Sociology of Religion
４．発表年 2021年

１．発表者名 伍嘉誠
２．発表標題 香港における新型コロナについての一考察 －機能しない政府と市民社会の力－
３．学会等名 （ウェビナー）「ポストコロナ時代の東アジア～新しい世界のコミュニケーション～」
４．発表年 2020年

１．発表者名 伍嘉誠
２．発表標題 香港における新型コロナ対策からみる市民社会の力－宗教団体による活動を事例に
３．学会等名 ウェビナー「ポストコロナ時代の東アジア② コロナ時代にみる東アジアの信仰の姿」
４．発表年 2020年

１．発表者名 Ng Ka Shing
２．発表標題 Religion at Risk in Hong Kong? Carrie Lam's Proposal for Establishing a Religious Affairs Unit and Its Implication
３．学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ng Ka Shing
２．発表標題 Establishing a Religious Affairs' Unit in Hong Kong? Controversy of Carrie Lam's Proposal and Its Implication
３．学会等名 2nd Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ng Ka Shing
２．発表標題 香港におけるナショナリズムの台頭と宗教の役割―キリスト教会を中心に
３．学会等名 日本国際文化学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計4件

１．著者名 Ng Ka Shing (Satoshi Abe, Lim Tai Wei編)	４．発行年 2022年
２．出版社 World Scientific Publishing Company	５．総ページ数 226
３．書名 Modernization in Asia The Environment/Resources, Social Mobilization, and Traditional Landscapes Across Time and Space in Asia (（分担執筆：The Technology of Religion and Modern Localism in Hong Kong: Christianity in the Umbrella Movement and After）（67-112ページ）	

1．著者名 伍嘉誠（櫻井義秀、平藤喜久子編）	4．発行年 2022年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 292
3．書名 現代社会を宗教文化で読み解く（分担執筆：キリスト教は社会運動をなぜ支援するのか――リベラリズム）（177-205ページ）	

1．著者名 伍嘉誠（櫻井義秀編）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 344
3．書名 中国・台湾・香港の現代宗教（分担執筆：香港の基督教と雨傘運動）（207-231ページ）	

1．著者名 伍嘉誠（玄武岩、藤野陽平編）	4．発行年 2020年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 272
3．書名 ポストコロナ時代の東アジア（分担執筆：香港における新型コロナについての一考察―市民社会の力（78-89ページ）；香港におけるコロナと宗教）(257-262ページ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関